

肩先は恙一羽黒月山湯後三雨権現加護
所と出付るあひ笠といふを恙一易經圖解
よ出る唐

の天の冠は
似るものあり

刑部の前に出て盃を戴火し一井

賜るもの後刻又出石火井あひ笠を添て

石火井を

古い二品を玉泉寺へ巻くものとて初穂
古株はお遠く来列部へ切るといふ

姑二人

てもけ方り有ても尋常にといふ又二人あり

茶蓋の中に燭燭を煮て大松明の本は待又

枵を落く片さて三角に二つ拵大火小火と

出付二つあひをて扇の形と一是を火二扇と

いふ雨音の降る時燭燭の上は拵後具とて

茶詣の大幣をる松明をて東西へ散一

あひ笠をて二人は時々競て燭を獲る大

松明は先は燭付るを獲と一落れるを

頂とて位上の方獲る年ハ西三十三ヶ國を

言と一ト三十三ヶ國を言とて去年の除夜

社系一傳りて格式を見一に祓は殊獲る

おもつは傳る正月七日の夜も燭を獲る

事ありといふ年中行事無きより一て記を

に附あり